

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第22週[5月31日～6月6日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

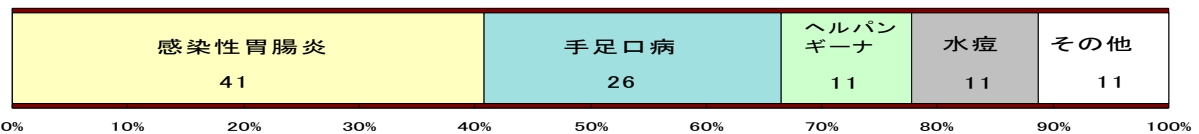
県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：手足口病，ヘルパンギーナ

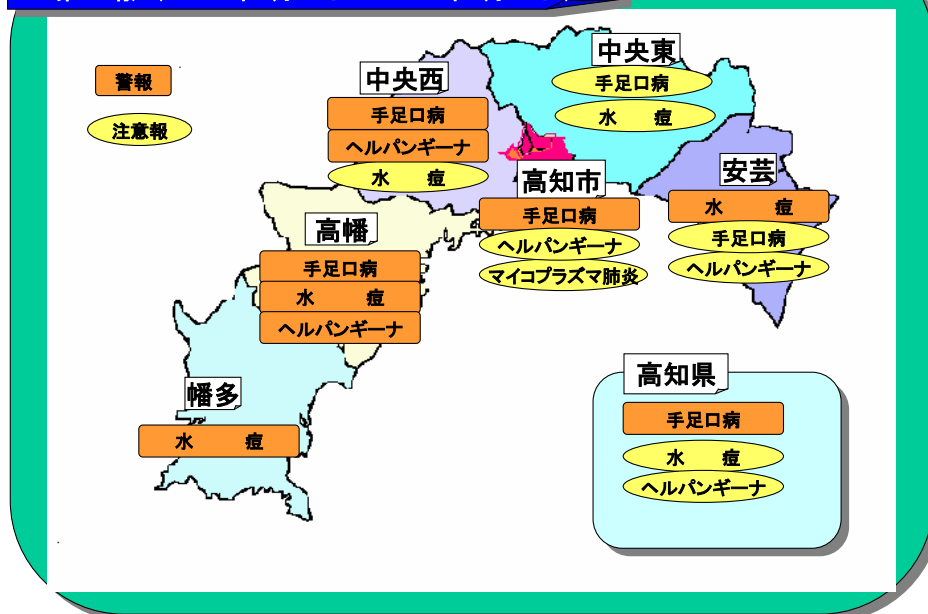
- ・ 週の始めは曇りや雨の天気であったが，その後は晴れて気温も上昇した。
- ・ 感染性胃腸炎は幡多を除く地域で増加または横ばいとなり，総数はやや増加した。
- ・ 手足口病（高幡：警報→警報，中央西：警報→警報，高知市：警報→警報，安芸：注意報→注意報，中央東：注意報→注意報）は高幡と安芸で増加したが，その他の地域で減少し，総数はやや減少し警報値を下回った。
- ・ ヘルパンギーナ（安芸：注意報→警報，中央西：警報→注意報，高幡：警報→注意報，高知市：注意報→注意報）は安芸で増加したが，その他の地域で減少し，総数は減少した。
- ・ 水痘（安芸：警報→注意報，高知市：注意報，幡多：警報→注意報）は高知市で増加したが，その他の地域で減少し，総数は大幅に減少し注意報値を下回った。

上位疾患構成図



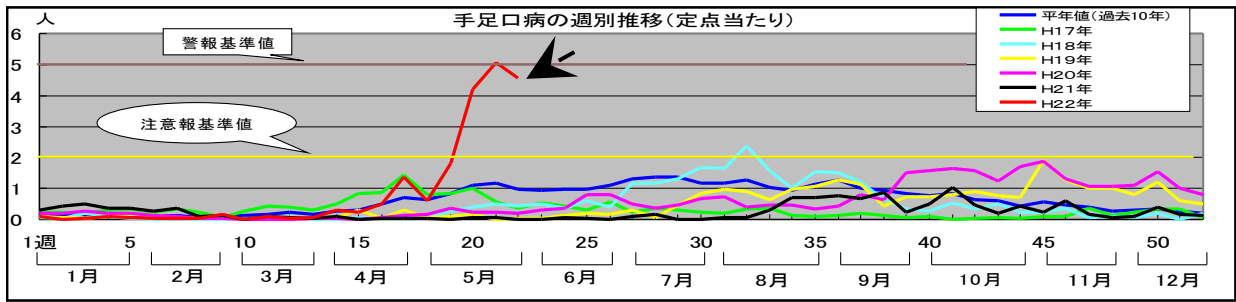
地域別感染症注意報・警報発生状況

第20報 (2010年5月17日～2010年5月23日)



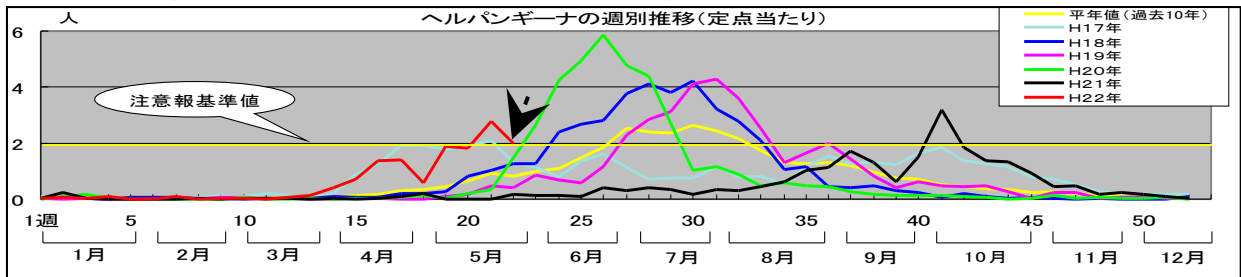
手足口病：今週4.57 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

第18週以降急増を続けていたが，今週は減少に転じた。しかし，幡多を除く地域で注意報値を超しており，特に高幡，中央西，高知市では警報値を超す流行が続いている。今後も推移に注意が必要である。



ヘルパンギーナ：今週2.00（注意報値：2.00 警報値：4.00）

例年と比較して流行の立ち上がり早く、第14週以降増加傾向が続いていたが、今週は減少に転じた。しかし、例年の流行のピークは6～8月であり、今後の推移が注目される。



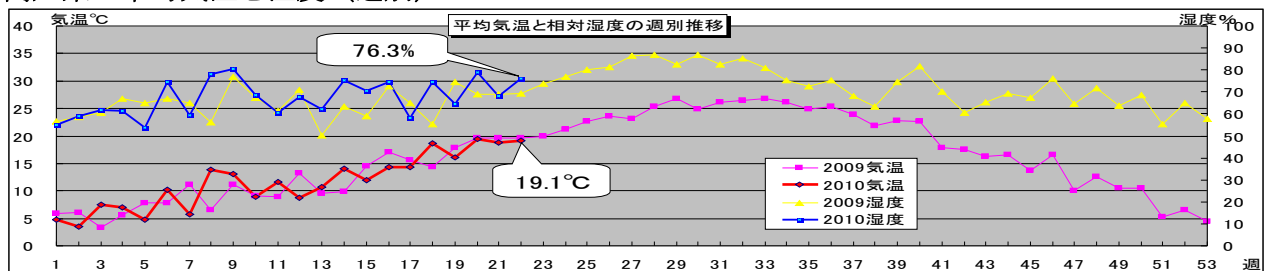
検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
21	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6歳女	高 幡	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-25
22	気管支炎	10歳男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
22	急性肺炎	9歳男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
19	咽頭結膜熱	9ヵ月女	高 幡	Adenovirus2
19	咽頭結膜熱	2歳女	高 幡	Adenovirus1
19	咽頭結膜熱	1歳女	高 幡	Adenovirus1
22	感染性胃腸炎	4歳女	高 幡	Sapovirus
22	感染性胃腸炎	1歳男	高 幡	Rotavirus A群

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 2例（88歳男）《高知市》（90歳女）《須崎》（今年59例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《渭南病院小児科》：アデノウイルス陽性 1例（1歳女）
 《松谷内科》：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1例（16歳男）

高幡：

《もりはた小児科》：アデノウイルスによる滲出性扁桃炎 2例 手足口病の流行が続く
 感染性胃腸炎の5例中4例はロタウイルス陽性
 カンピロバクター腸炎 1例（12歳男）

高知市：

《福井小児科・内科》：マイコプラズマ肺炎 1例（8歳男）
 《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 1例（1歳女）
 百日咳の2例中1例（2歳男）は東浜株2560倍、山口株640倍、DTP接種歴あり（4回済み）、1例（14歳女）は東浜株160倍、山口株640倍、DTP接種歴あり（4回済み） マイコプラズマ肺炎 2例（2歳男、4歳女）

《高知赤十字病院内科》：インフルエンザの1例（80歳以上女）はA型陽性

《町田病院》：流行性角結膜炎の2例（20歳代男）はアデノウイルス陽性

中央東：

《高知大学医学部附属病院小児科》：感染性胃腸炎の1例（2歳男）はロタウイルス陽性

《早明浦病院小児科》：マイコプラズマ肺炎 2例（3,5歳女）

全国情報第20週（5/17～5/23）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核285例

3類感染症：細菌性赤痢6例、腸管出血性大腸菌感染症36例（有症者25例、うちHUS 1例）

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎7例〔*第10～20週の累積報告数は178例（劇症肝炎5例、うち死亡1例）となり、都道府県別では、福岡県25例、東京都23例、広島県22例、兵庫県12例の順に多い。広域アウトブレイクの可能性もあり、引き続き注意を要する。〕、つつが虫病2例、デング熱2例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症12例

5類感染症：アメーバ赤痢12例、ウイルス性肝炎（B型）5例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群25例（AIDS 8例、無症候14例、その他3例）、ジアルジア症1例、梅毒7例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん2例、麻しん14例

報告遅れ：レジオネラ症1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

◆手足口病

手足口病（hand, foot, and mouth disease：HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。病原ウイルスは主にコクサッキーウイルスA16（CA16）、エンテロウイルス71（EV71）であり、その他コクサッキーウイルスA6、A9、A10などのエンテロウイルスによって発症する。臨床的特徴であるが、感染から3～5日の潜伏期間の後に、口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現する。発熱は約3分の1に認められるが軽度であり、高熱が続くことは通常はない。本症は基本的には数日間のうちに治癒する予後良好の疾患である。しかしながら、まれではあるが髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を呈することがある。特にEV71に感染した場合は、中枢神経系の合併症を引き起こす割合が高いことが明らかとなってきたため、同ウイルスが流行している期間中は、手足口病発症児の経過を注意深く観察し、合併症に対する警戒を行う必要がある。なお、急性脳炎を合併した場合には、診断した医師は5類感染症全数届出疾患として報告が必要である。

感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、保育園や幼稚園などの乳幼児施設における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本となる。本疾患は主要症状が回復した後も比較的長期間にわたって児の便などからウイルスが排泄されることがあるが、基本的には軽症疾患であることを踏まえ、回復した児に対して長期間の欠席を求めることは現実的ではない。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて手足口病をはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。2010年第20週の手足口病の定点当たり報告数は1.41（報告数4,267）となった。ゴールデンウィーク終了以降は2週連続で増加しており、また第10週以降は2000年以降の11年間の同時期の値の中では最も多い状態が続いている。都道府県別では愛媛県（10.2）、山口県（6.1）、大分県（4.3）、高知県（4.2）、宮崎県（4.0）、福井県（3.7）、和歌山県（3.2）、兵庫県（3.1）の順であり、西日本地域での流行が目立っており、特に愛媛県、山口県、高知県では大きく増加している。

2010年第1～20週までの定点当たり累積報告数は8.42（累積報告数25,478）であり、年齢群別では2～3歳40.2%（10,239）、0～1歳31.0%（7,905）、4～5歳19.2%（4,900）の順となっており、発生報告の中心が5歳以下の乳幼児であることは例年と同様である。

第1～20週までの20週間の手足口病由来ウイルス分離・検出報告数は76件であり、EV71が65.8%（50件）と最多を占め、2004年以降では最も高い割合となっている。

2010年の手足口病の報告数は、2000年以降の同時期と比較して最多となっているが、今後は夏季の流行のピークに向かって更に増加してくるものと予想される。また、患者由来検体から検出されるウイルスではEV71が多数を占める状態が続いており、患者発生数の増大と共に、中枢神経系の合併症発生例の増加が懸念される。今後とも手足口病の患者発生動向の推移と、発病者由来検体からのウイルスの検出状況には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(21週)	高知県(22週末累計) H22/1/4~H22/6/6
			中央東	高知市	中央西						
内科・ 小児科	インフルエンザ			1				1 (0.02)	1 (0.02)	472 (0.10)	2,545 (53.02)
	咽頭結膜熱			1			2	3 (0.10)	1 (0.03)	944 (0.31)	34 (1.13)
	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎		1	10	2	1		14 (0.47)	25 (0.83)	5,456 (1.80)	464 (15.47)
	感染性胃腸炎	9	45	119	23	5	12	213 (7.10)	182 (6.07)	21,962 (7.24)	6,232 (207.73)
	水痘	5	12	27	1	2	11	58 (1.93)	88 (2.93)	9,065 (2.99)	894 (29.80)
	手足口病	7	21	63	21	24	1	137 (4.57)	152 (5.07)	4,658 (1.53)	582 (19.40)
	伝染性紅斑	1	3	1				5 (0.17)	10 (0.33)	1,010 (0.33)	59 (1.97)
	突発性発疹		2	10	4	3	2	21 (0.70)	19 (0.63)	1,804 (0.59)	243 (8.10)
	百日咳			2				2 (0.07)	1 (0.03)	145 (0.05)	22 (0.73)
	ヘルパンギーナ	10	3	27	11	5	4	60 (2.00)	83 (2.77)	2,260 (0.74)	409 (13.63)
	流行性耳下腺炎		1	5				7 (0.23)	8 (0.27)	3,708 (1.22)	105 (3.50)
RSウイルス感染症									230 (0.08)	759 (25.30)	
眼科	急性出血性結膜炎									12 (0.02)	2 (0.67)
	流行性角結膜炎			2				2 (0.67)	1 (0.33)	385 (0.57)	28 (9.33)
基幹	細菌性髄膜炎									7 (0.02)	4 (0.57)
	無菌性髄膜炎						1	1 (0.14)		17 (0.04)	7 (1.00)
	マイコプラズマ肺炎			2				2 (0.29)	5 (0.71)	212 (0.46)	31 (4.43)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 (0.14)		7 (0.02)	8 (1.14)
計 (小児科定点当たり人数)	32 (16.00)	88 (12.57)	271 (24.15)	62 (20.67)	40 (20.00)	34 (6.60)	527 (17.35)				
前週 (小児科定点当たり人数)	26 (13.00)	98 (14.00)	274 (24.36)	77 (25.67)	45 (22.50)	56 (11.13)		576 (18.99)	52,354	12,428 (379.79)	

定点当たり

第22週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(21週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・ 小児科	インフルエンザ			0.06				0.02	0.02	0.10
	咽頭結膜熱			0.09			0.40	0.10	0.03	0.31
	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎		0.14	0.91	0.67	0.50		0.47	0.83	1.80
	感染性胃腸炎	4.50	6.43	10.82	7.67	2.50	2.40	7.10	6.07	7.24
	水痘	2.50	1.71	2.45	0.33	1.00	2.20	1.93	2.93	2.99
	手足口病	3.50	3.00	5.73	7.00	12.00	0.20	4.57	5.07	1.53
	伝染性紅斑	0.50	0.43	0.09				0.17	0.33	0.33
	突発性発疹		0.29	0.91	1.33	1.50	0.40	0.70	0.63	0.59
	百日咳			0.18				0.07	0.03	0.05
	ヘルパンギーナ	5.00	0.43	2.45	3.67	2.50	0.80	2.00	2.77	0.74
	流行性耳下腺炎		0.14	0.45				0.23	0.27	1.22
RSウイルス感染症									0.08	
眼科	急性出血性 結膜炎									0.02
	流行性角結膜炎			2.00				0.67	0.33	0.57
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎						1.00	0.14		0.04
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.29	0.71	0.46
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14		0.02
計 (小児科定点当たり人数)	16.00	12.57	24.15	20.67	20.00	6.60	17.35			
前週 (小児科定点当たり人数)	13.00	14.00	24.36	25.67	22.50	11.13		18.99		

2010年週報推移(定点当たり)

